

学生レポ! 私も 広大です

警察官から指導者の道へ 本物志向でプロ選手を輩出

もともとは高校の体育教員を目指していましたが、採用試験に落ちて広島県警に就職。警察官の仕事はやりがいがありましたが、東京の警察大学で受けた半年間の体育研修が人生の転機となりました。警察学校の教官として警察官の体力向上訓練を担当したことをきっかけに、再び指導者の夢を追いかけることに。トレーニングジムを開設・運営する、株式会社アスリート

を設立しました。社名をアスリートにしたのは、単なるフィットネスクラブではなく、競技に関わる人の役に立ちたいという思いがあったからです。当ジムのこだわりは、本物志向。正しい知識と理論で、それぞれのスポーツに適した指導をしています。例えば、運動量の多いサッカーは心拍数を意識したトレーニング、運動量が少なく瞬発的な動きを要求される野球はスクワットなどによる筋肉増強を重視します。創業して約30年、プロアマさまざまなジム会員の協力の下、試行錯誤して今の指導法が出来上がりました。

これまで300人以上のプロアスリートのトレーニングに関わってきました。プロ野球選手では、カーブの元監督・野村謙二郎が会員第一号。彼が年々活躍していくのを見るのはうれしかったですね。トリプルスリーを達成してくれ、「パワフルで動ける」選手の輩出を目指していた私には喜ばしい限りでした。

本場で学んだトレーニング法を 若い世代へ伝えたい

ジムには、私のようにトレーナーになりたいという学生も訪れます。しかし残念ながら、トレーニングの基礎を正しく理解している学生はごくわずかです。大学や専門学校などの指導者養成機関に正しくトレーニング指導できる教員が極めて少ないのでしょう。そのため、これからは指導者育成に尽力したいと思っています。

私の指導は長年学んできたアメリカ仕込みです。初めて海外に行ったのは、警察官を辞めた直後。本場のトレーニングを学ぶためにアメリカへ行った時のことでした。1931年に完成したニューヨークのエンパイア・ステート・ビルを見て、「日本が戦争への道を歩んでいたころ、アメリカではこんな高層ビルができていたのか」と衝撃を受けました。以来、ジム会員にも刺激を受けてもらいたくて、頻りに海外研修に連れて行っています。海外旅行や留学は、自分の価値観を変えてくれるので、時間に余裕のある学生のうちにぜひ経験してほしいですね。そして、私のように大人になって後悔しないよう、英語だけはしっかり勉強しておくといいでしょう。

大学時代は社会が認めた4年間の「治外法権」期間のようなもの。後輩たちには勉強以外にもいろいろなことチャレンジしながら、将来やりたいことを見つけてほしいと思います。

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されているOB・OGの方々に学生がインタビュー。現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。



教育学部 出身

平岡 洋二 さん 株式会社アスリート 代表取締役

ひらおか・ようじ / 広島大学教育学部 高校体育科1977年度卒業。広島県警察官を経て、トレーナーに転身。トレーニングの本場アメリカで研修を積み、1989年にトレーニング事業会社・株式会社アスリートを設立。これまで金本知憲氏、新井貴浩氏、丸佳浩氏らプロ野球選手をはじめ、300人に及ぶトップアスリートを指導してきた。JOC強化スタッフ、フィットネスコーチなどを歴任。



Report 学生広報ディレクター

これからのビジョンとして、「指導者にきちんとした指導方法を教えたい」とおっしゃっていたのが印象的でした。これまで平岡さんがアメリカで学ばれてきた技術や指導方法が、もっと多くの指導者やアスリートの方たちに伝わり、日本のスポーツのレベルがもっと上がってほしいとスポーツファンとして感じました。

歯学部4年 佐々木 香奈栄さん



かめい・めり / 広島大学総合科学部2001年度卒業。夫が代表を務めるシープス行政書士事務所では外国人の在留資格の申請などを行う。2017年、株式会社SHEEPSを設立し、外国人労働者の住宅探しなどの支援のため、宅建業を開始。2020年有料職業紹介事業所アメリカワークスを開始。高度人材、特定技能、外国人材の紹介を行う。同年、東広島市主催の起業を目指す若者たちを支援するプログラム「起業道場」において高度外国人材の紹介事業を発表し市長賞を受賞。



お客様のニーズに応えるために 新しい分野に次々と挑戦

最初は夫の経営する行政書士事務所が顧客企業からの依頼を受け、外国人労働者の在留資格の申請をしていました。その業務の中で聞いたのが、社宅の準備に困っているという話です。在留資格の申請と合わせて社宅の仲介をすれば、スムーズに外国人労働者の方に働いてもらえるのではと、株式会社SHEEPSを立ち上げました。3年後、人の紹介もしてほしいという顧客企業のご要望に応え、人材不足の企業と日本で働きたい外国人をマッチングする有料職業紹介事業所「アメリカワークス」を始めました。法務省が認可する登録支援機関として、新しい在留資格の「特定技能」を持つ外国人についても受け入れ企業と共に支援するなど業務範囲を拡大しています。

会社のモットーは「お客様に求められるサービスを創出・提供し続ける」。お客様が必要とするなら、誰もやったことがないことでも、新しく会社を立ち上げてやる。1回だけ偶然できるサービスではなく、安心してご利用いただくために継続的にできるサービスしか提供していません。感謝の絵手紙を頂いたこともあります。

今の仕事の原点となったのは広島県福山市で過ごした幼少期の体験です。近くの造船所で多くのブラジル人の方が働く姿を見て、外国人が日本で働いていることに興味を持ちました。造船所の近くに開業した中古自動車店は、語学力を生かして繁盛していました。人がやっていないことをするには価値がある、仕事は自分で作り出すことができると気付きました。小学校6年生の時です。

自壊する視点を持つことで 強みに気付いた

今年、東広島市が主催する起業応援プログラム「起業道場」に参加し、市長賞をいただきました。マスコミの取材を受けるなど予想以上の反響がありましたね。私が立案した高度外国人材の紹介事業の事業計画に対して、さまざまな分野の経営者の方々から意見をいただきました。この事業はこれまでの延長線上で、需要も供給も見込めており、誰が聞いても「やればいい」と言う計画でした。ある方から、この事業をどうやって壊すかという視点がないと言われ、1週間くらい考えましたね。どうすれば壊れるのか、それを防ぐことができれば、盤石になるのだと。顧客は順調に広がっていたのですが、宣伝は行っておらず口コミ頼りでした。つまり口コミをしてくれる人を仲間にしなくて壊れると気付きました。顧客に満足いただくことがいかに重要かを再認識できましたね。

最近、やりたいことが見つからないという若者の声をよく聞きます。私は10年後の自分をイメージし、今日1日をどう過ごせばいいのか考えていました。10年経った時、想像していなかった景色が見えます。具体的な仕事でなくても、こんな暮らしがしたいなど、夢があればいいと思います。

総合科学部 出身

亀井 芽里 さん 株式会社SHEEPS 代表取締役

Report 学生広報ディレクター

会社を存続させるために会社の壊され方を知るとい言葉がとても印象的でした。また自分たちの仕事には誰かの人生が掛かっているという思いを持ち、取引先と真摯に向き合う姿には熱意を感じました。エネルギーな亀井さんへの取材を通して自分自身の将来について改めて考えさせられました。

情報科学部1年 羽角 由雅さん

